

## ■ 共通の成果指標と達成目標

### 国際化関連

#### Tokyo Tech ANNEX Aachen

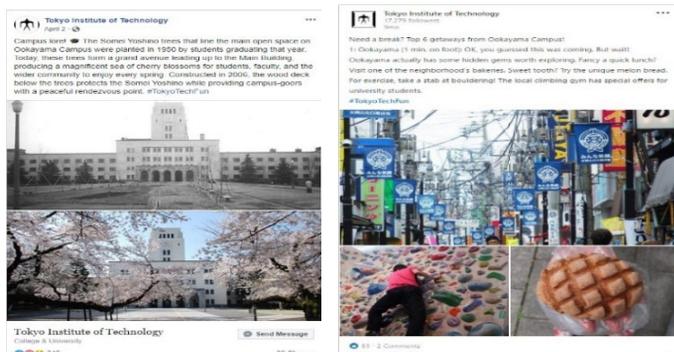
本学は、「教職員のユニット派遣制度」を発展させ、海外の大学、研究機関、企業等と連携して行う国際的な教育活動、広報活動及び研究活動を戦略的に推進、実施し、本学の教育研究の発展に寄与することを目的とした、新たな海外拠点「Tokyo Tech ANNEX」(以下、アネックス)の設置を進めている。本学初の欧州拠点として、ドイツのアーヘン工科大学との連携のもと、「Tokyo Tech ANNEX Aachen」を同大学内に開設し、3月22日に開所式を行った。タイ・バンコク(2018年3月開設)に続き2つ目のアネックスとなる。



〈アネックスアーヘンの開所式〉

### SNS

海外向けに英語での本学の紹介や海外の同窓生向けに、最近のキャンパス写真や近くの商店街の様子などを紹介文とともにSNSで発信し、「Tokyo Tech」の魅力を広く発信するとともに、海外同窓会との強化のひとつとして取り組んでいる。



〈SNS発信〉

### ガバナンス改革関連

#### 全学プロジェクト進捗調整部会

大学全体の戦略立案、指揮及び総括を行う「戦略統括会議」の中にあつた「スーパーグローバル大学創成支援事業部会」、「研究大学強化促進事業部会」、「指定国立大学法人部会」の各部会をWGIにし、その上にそれぞれのプロジェクト全体を見渡せる「全学プロジェクト進捗調整部会」を立ち上げた。部会においてはそれぞれのプロジェクトのKPIの状況を把握し、さらに伸ばす目標や目標達成が困難な事項について検討を行い、経費を含む対策をとっている。

### 教育改革関連

#### グローバル理工人育成コース —国境を越えて活躍するエンジニアを育てる—

世界規模の課題解決に取り組むためには、高度な科学技術の素養を持つ理工系の人間もまた、異なる文化圏の人々と顔を突き合わせ、相手を理解し、また自分をアピールしながら、同じ目的に向け邁進できるような力が求められる。そのような力を持つ人材を育成すべく、本学には標準課程の履修に加え選択することができる「グローバル理工人育成コース」がある。東工大に入学する学生は、必ずしも最初から、高度な英語力とコミュニケーション能力を持っているのでも、ましてや国際舞台での経験がある訳でもないため、初級・中級コースの所属生はグローバル理工人になるための基礎を身に付けるべく、次の4つのプログラムに取り組んでいる。

1. **国際意識醸成プログラム** 国際的視点で考えることの重要性と、多様な人々との調整力を学びます。
2. **英語力・コミュニケーション力強化プログラム** 海外の大学等で勉強するのに必要な英語力の修得を行います。
3. **科学技術を用いた国際協力実践プログラム** 国や文化の違いを越えて協働できる能力、複合的な課題について、その本質を見極めて解決策を提示できる能力を育みます。
4. **実践型海外派遣プログラム** 海外留学及び事前事後の教育を通じて、危機管理も含めて海外で主体的に行動できる能力の修得を目指します。



〈本学HPより〉

グローバル化にともない、私たちを取りまく環境は海外とより密接なつながりを持つようになった。2013年のコース開設当初は所属生が200人あまりだった本コースだが、海外へ出ていこうという意志を持った東工大生が徐々に増え、現在では約1,200人が所属するところとなっている。

全地球的な考え方が求められる時代の中で、高度な専門性と豊かな人間性を兼ね備え、世界を舞台に活躍する気概と実力をもった人材の輩出を目指している。

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標

### 東工大博士研究員制度

理工系グローバル人材を育成し、国際共同研究を促進するため、海外での研究活動を実施する優秀な若手研究者を雇用することにより長期派遣を可能にする「東工大博士研究員制度」を施行することとし、各学院等へ募集をかけ平成29年度に1名試行、30年度に次年度1名を派遣することを決定した。

## ■ 国際的評価の向上につながる取組

### 国際的認証評価

本学の工学院機械系、同電気電子系では国際的認証評価の一つであるJABEEの予備審査を受審し、暫定認定を受けた。これにより2つの系では来年度本認定に向け申請書を提出している。

### 【海外の大学との連携の実績(タイプAのみ)】

#### サマープログラム

欧米を中心とする本学協定校等との連携による国際化の推進を目的として、サマープログラム(Tokyo Tech Summer Program 2018)を開催した。2016年開始、3回目となる今年度は、34名の学生が参加しました。研究室での研究活動のかたわら、参加者たちは必修授業と課外活動で、さまざまな日本文化を体験した。必修授業ジャパン・スタディーズでは、茶道・浴衣着付け体験を行った。



〈ひな祭りイベント〉



〈茶道着付け体験〉

#### ウィンタープログラム

オセアニア地域から本学協定校等との連携による国際化の推進を目的として、ウィンタープログラム(Tokyo Tech Winter Program 2018)を開催した。第3回目となる今年度は、オーストラリアのメルボルン大学、オーストラリア国立大学、シドニー大学、ニューサウスウェールズ大学の計4大学から18名の学生が参加した。

## ■ 自由記述欄(取組について自由にアピールしてください)

### 未来社会DESIGN機構(DLab)10月28日キックオフ

未来社会DESIGN機構とは、予測可能な未来とはちがう「人々が望む未来社会とは何か」を、社会と一緒に考えてデザインし、導き出された未来社会像を実現するために必要な要素(技術、政策など)を含めて広く社会のみならずと共有し、共に実現に向けた活動を行うことで社会に貢献する組織である。本学にとっても新しい挑戦となる機構の取り組みのために、2018年春から学内構成員の他、実業家や広告会社、映像制作会社の方々など多様な学外構成員を交え、機構の在り方や目指すべき方向について議論を重ねてきた。



今回のキックオフイベントには、本学学生・教職員はもちろんのこと、学外からも高校生、社会人、卒業生など130名以上の多様な方が参加した。



〈未来社会DESIGN機構ポスター〉

未来社会DESIGN機構では、変わりゆく時代のなかで、今回のワークショップのように、自由に、ありたい社会を語り合い構想する仕組みを作りつつ、今後、参加者が描いた「私の創りたい未来」をもとに、「こうありたい」という未来社会像を描いていく。